

道県名：秋田県

所 属：由利地域振興局

職氏名：技師 千葉 智晴

1 発表テーマ

「高校生による木づかい運動の推進に向けた木育スクールの展開」

2 テーマの趣旨・目的

秋田県由利地域は県内でも有数の林業地域でありながら、街並みに利用されている木材はあまり見られない現状である。そこで、林業地域に生まれ育ちながらも、木材に触れる機会に欠け、木の良さ・魅力に気づかせられていない高校生を対象として、“高校生から発信する木づかい運動”をねらいとし、今年度から活動を始めた。

3 現状及びこれまでの取組の成果・課題

生徒に対して総合的な学習の授業時間を持つ県立西目高等学校（総合学科制）と由利地域振興局森づくり推進課が連携し、平成20年8月から3年生7人を対象に「西目高校木育スクール2008」と題して、計5回にわたり、木の様々な性質に触れる学習（触れる・親しむ活動）、間伐材生産から加工までの学習（知る活動）、文化祭イベント親子木育講座、種苗交換会製作実演販売（作る・普及する活動）など多岐にわたる活動を実施した。

<西目高校木育スクール2008の実施カリキュラム>

日程、人数	スクール名、場所	内容
H20.8.4 参加生徒数：7人	木育スクール 体感編 ～木に触れ親しむ～ 場所：木材高度加工研究所、集成材工場、森林総合利用施設（能代市）	木の良さ、魅力や性質などの研究、木材加工品（プランター製作、木製カヌー乗船）について“触れること”をテーマとした体験学習。
H20.8.27 参加生徒数：7人	木育スクール 学習編 ～間伐材を学ぼう～ 場所：高校近隣の間伐現場、木材流通センター、製材工場（由利本荘市）	伐採現場での枝払い体験やワークショップ、製材工場見学など、丸太から製材品となるまでの一連の流れをテーマとした体験学習。
H20.9.30 参加生徒数：5人	木育スクール準備・予行演習 ～親子木育講座に向けて～	親子木育講座(10/4)のプレゼンの予行演習と木製プランターの製作演習。
H20.10.4 参加生徒数：7人	木育スクール 普及指導編Ⅰ ～文化祭イベント「親子木育講座」 地域へ木育の普及～	生徒たちが親子に木製プランター製作と木材利用の意義について“普及する、教える”ことをテーマとした講座。
H20.11.1～11.2 参加生徒数：7人	木育スクール 普及指導編Ⅱ ～種苗交換会 製作実演PR 地域へ木育の普及～ 場所：にかほ市種苗交換会会場	県種苗交換会森林・林業展PR、木製プランター製作実演、販売活動

平成20年8月4日 <木育スクール 体感編 > ～木に触れ親しむ～



(簡易器具で曲げ加工「お～、曲がる～」)



(木製カヌー漕いでます「恐エ～」)

平成20年8月27日 <木育スクール 学習編 > ～間伐材を学ぼう～



(伐採した木の見学)



(ワークショップ 森の目・人の目)

平成20年10月4日 <木育スクール 普及指導編I「親子木育講座」>



(木育の講義「緊張気味です!」)



(木製プランター製作指導「しっかり押さえて」)

① 成果

- ・木製プランター製作により校内活動（花き栽培）との連携が図られた。
- ・普及する場（親子木育講座、種苗交換会）において、相手に情報を伝えるための気配り、豊かな表情、自発的な行動が見られた。
- ・"教わる立場"から"教える立場"に変わることによって生徒たちに大きな達成感、充実感が得られた。（アンケートの結果から）

② 課題

- ・活動初年度ということもあり、短期間での学習となっている。
→春から活動するには、3月までに高校と連携し、おおよそのカリキュラムを企画することが必要。
- ・木製プランターの既製品のキットを使用したが高価なため販売しづらい。
→高校生が設計デザインした安価な木工品を創り、販促活動を行うことが必要。

4 今後取組むべき内容

①具体的手法又は検討方向

木育スクールを通じて、"高校生が考えた間伐材・林地残材を利用した木製品"など地域林業の課題解決に向けた発案がされるように展開したい。

また、文化祭イベント「親子木育講座」を核とした木育スクールを今後も継続して実施し、地域内外へ"木づかい運動"が波及・定着するようにPR性の高い企画にする必要がある。

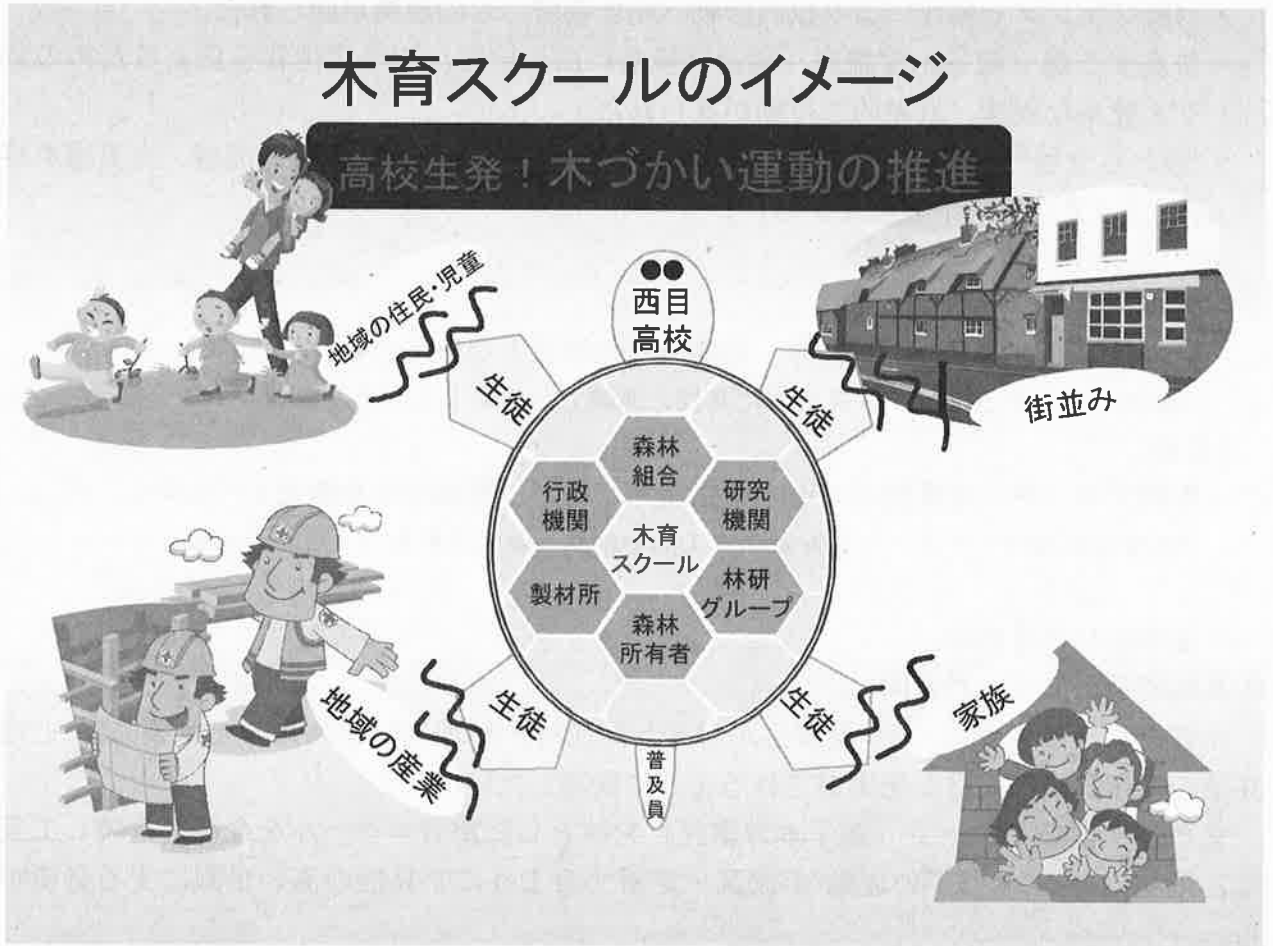
②理由

由利地域の利用間伐率は2割未満と低く、間伐材・林地残材の新たな利用法が課題とされている。

③期待する成果

木育や木づかい運動が一般市民にも浸透し、木材利用の推進、二酸化炭素固定の意義等が理解され、広がることで地球温暖化防止の一助となるため、波及効果が生まれるような「実効性のある企画の提案」を意識し、高校や関係者と共に木育スクールのカリキュラムを創り出していくことが必要である。

<西目高校木育スクールのイメージ>



(息の長い環境教育のため、「継続的に、一步一步取り組む活動」という意味を込めてカメに例えて描いている。)